

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176502092
法人名	ALSOK介護株式会社
事業所名	グループホームみんなの家・七里
所在地	埼玉県さいたま市見沼区春岡1-23-5
自己評価作成日	令和3年11月7日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和3年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に、楽しく健康に日々の生活を送って頂く事ができるかを職員全員が取り組んでおります。その一つが、毎月行っている催しごとや日々のレクリエーションとなっております。職員一人一人が企画し、事故やけがの無いように準備して実施しております。特に、料理のレクリエーションに力を入れており、こちらも毎月実施しております。また、日々の生活をご家族様や外部の方へお伝えすべく、当施設ではスタッフブログに力を入れております。コロナウイルス対策として面会制限をしていたため、日々のご利用者様の様子をお伝えすることができ、当施設のことを広く周知できていると考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、東武アーバンパークライン「七里駅」より徒歩13分程にある、鉄筋コンクリート造3階建、定員18名のグループホームである。1階は訪問介護と居宅介護支援事業所、2・3階がホームの各ユニットの複合施設となっている。近くには公園があり、緑豊かな住環境にある。現在はコロナ禍により、外部との交流を自粛しているが、「イベント、行事」等、日々のレクリエーションに力を入れている。健康増進に努め、「ALSOKあんしんヨガ」などを実施している。ホームの様子をスタッフブログで発信している。地域や家庭との結びつきを大切にし、家庭的で穏やかな雰囲気の中で充実した生活が送れるよう、一人ひとりに寄り添ったケアに取り組んでいる。職員の定着も良く、入居者との馴染みの関係性が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念につきましては、月1回の職員会議やフロア毎の会議の中で、職員への周知を徹底しております。欠席した職員については議事録を回覧し、確認後は「確認印」を押すよう指示しております。	会議を始める前に理念を唱和し、全職員で意識づけをしている。月1回の職員会議やフロア会議で振り返り、意識の共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の様子を「スタッフブログ」で定期的に発信しており、ITを活用してより多くの方々を知っていただく取り組みを行っております。	自治会に加入し、回覧板より地域の情報を得ている。現在はコロナ禍により、交流が図れていない状況にあるが、ホームの様子をブログで定期的に発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ禍の為見合わせております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナ禍の為実施には至っておりませんが、社内の「健康増進サービス課」が開発した「ノーアエクササイズ」や「ALSOKあんしんヨガ」等、地域の方々や福祉関係者に知っていただくようブログ内で報告しております。	現在はコロナ禍のため、奇数月に1度、家族や行政に書面にて運営推進会議開催中止のお知らせや現状報告、活動報告を行い、助言や協力を頂き、サービスの向上に活かしている。	本会議は地域の理解と支援を得る貴重な機会であり、重要な位置づけとなっている為、コロナ収束後は地域住民に声掛けし、参加を募り、開催されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者の方が入居されている事もあり、見沼区役所の担当者と連絡を取りあっております。	生活保護者の報告やワクチン接種の情報等、適宜に電話やメールで連絡を取り合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回、身体拘束等の適正化のための研修を年2回実施しております。身体拘束の具体的な行為を明文化して職員へ周知するなど、身体拘束廃止への取り組みを行っております。	身体拘束委員会を3ヶ月毎に開催し、資料を基に知識を深め、具体例を挙げた勉強会を実施している。また、全職員に理解を促すため、禁止の対象となる具体的な行為を職員の目の付く場所に掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年4回、虐待防止に係る研修を年1回実施し、その内容の周知と議事録の提出を義務付けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内です実施される会議や研修を通じてこれらを学ぶ機会があり、その内容は現場での会議等で職員へ周知しています。現在ではZOOMを使った会議に参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書に記載された該当箇所をご家族様の前で読み上げて説明し、ご理解いただけるよう取り組んでおります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新の度ごとにご家族様の意向を確認しており、電話連絡した際に意見を伺ったり、時にはアンケートにご協力していただくなどの取り組みも行っております。	家族に向け、毎月「一言通信」を送付しており、居室担当職員が手書きでホームでの暮らしの様子などを伝えている。5月にはアンケート調査を行い、「一言通信」についての感想や要望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別面談などで職員の意見を聞き、反映するよう心がけております。	定例の職員会議やフロア会議で意見や提案を聞いている。ホーム長は日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心掛け、話しやすい雰囲気づくりに留意している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課などによる職員の実績評価の他に、労務や権利擁護の観点から現場におけるハラスメントなどの相談や通報を、当事者のプライバシーを守りながら受け付ける取り組みも行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大宮にある「人材研修センター」で定期的な社内研修に参加予定です。法人外の研修については検討中となっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社内においては管理者会議等で交流があり、他社との交流については、ZOOMを使っての研修などが行われております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者がご本人様の要望などを伺い、入居時から1ヶ月間の暫定プランを作成しております。これをもとにご本人様の状況を確認しながら職員間で協議を重ね、ご家族様からのご意向も踏まえて、ご本人様に安心していただける関係作りを行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時はもとより入居後、ご家族様と電話連絡をする際などにご要望を伺うなど関係強化に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居契約時等に、今後の方向性などを話し合い、適宜専門医への通院や訪問サービスなどを決める等の対応を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が長年培われた生活力を活かして、掃除、洗濯など活躍いただける機会を設けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の現状をご家族様にお伝えし、治療内容等を理解いただくことで、共にご本人様を支える関係の構築に努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ渦のため見合わせております。	本人や家族からの情報を得て、馴染みの関係を把握している。現在はコロナ感染予防により、面会や外出を制限しているが、医療機関への通院は継続して行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様どうしの相性などを考慮しながら、お手伝いやレクリエーションなど、日々の活動を通じて関係性の維持を支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居などで契約終了となるケースが多く、サービス利用終了後も関係性を維持することが困難な場合もありますが、退居された方のご家族様よりご連絡があった際は、親身にアドバイスをしよう心がけております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアや面会時にご家族様からの聞き取りを通じて把握した情報をもとに、毎月の職員会議でカンファレンスを行い、状況に応じて再アセスメント並びにケアプランの見直しをしております。	個々に居室担当者を設け、日々の関わりから本人の言葉や表情等から、思いや意向の把握に努めている。家族と相談し協力を頂きながら、どのように暮らすことが最良なのか、日々検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査に始まり、入居後もご本人様はもとよりご家族様の面会時などに、お話を伺ってその把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、各フロア毎に計画作成担当者を中心にケアカンファレンスを実施して状況把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に当たっては、居室担当を含む3名以上の職員でケアカンファレンスを実施し、内容に応じてご家族様とかかりつけ医も交えて協議し、介護計画に反映しております。	入居者、家族の意向やかかりつけ医の意見を踏まえ、居室担当者が中心となり、計画作成担当者との職員で話し合いを行い、作成している。状況変化の都度、話し合いを行い、現状に即した計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスの中で情報や気づきの共有を図り、またモニタリングを通じてケアの実践や結果の検証を行い、介護計画の見直しに活かすよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様から同意を得た上で契約を結び、リハビリマッサージやシニアセラピーなどの付帯的なサービスを提供しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ渦のため見合わせております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の訪問診療は月2回実施されますが、提携医による受診支援はご入居者様やご家族様の希望も取り入れております。通院の付き添いはご家族様にご対応いただくことが前提ですが、必要時にはホームで代行し、支援しております。	希望するかかりつけ医の受診支援を行っており、通院は家族対応であるが、状況により職員が支援することもある。協力医の内科、歯科の訪問診療が月2回あり、歯科衛生士の訪問は週1回となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自社の訪問看護ステーションより「居宅療養管理指導」で「医療連携看護師」が週1回訪問しており、ご入居者様の健康維持管理に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院関係者との情報交換や相談には、提携医療機関や自社の訪問看護ステーションの支援を活用しており、早期退院に向けて、病院関係者に相談する体制を取っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針を文書化し、入居契約時にご家族様に同意いただいております。	入居契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明の上、同意を得ている。状態変化の都度、意向を確認し、職員、医師が密に連絡を取り合いながら方針を共有し、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自社の「医療連携部」と提携医療機関が作成した「緊急・急変時対応マニュアル」を参考に、事案が発生した際にはマニュアルにあるフローチャートの手順に従って確認を行うことで、介護現場においてもスムーズな対応が可能となっております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練では消火器の使い方や避難経路の確認等の訓練を実施し、その都度、消防署担当者から指摘いただいた内容を次の訓練に生かすよう心掛けております。地域との協力体制については、現在も模索中となっております。	今年8月に消防署に届出し、入居者、職員が参加の通報、避難、消火訓練を行っており、次回は来年3月に夜間想定をした訓練を予定している。また、加入の自治会に協力の依頼をしているところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議などを通じて、職員に「感謝の心」や「敬う心」を持ち、相手に配慮して対応するよう指導しております。	一人ひとりの人格を尊重し、日々の関わりから周りに配慮した言葉掛けや対応ができるよう、日々の会話や毎月の職員会議で話し合い、人生の先輩として敬う心を持って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症ゆえに自身の思いや希望を的確に伝えられない方に対しては、職員側からのアプローチを色々工夫して、ご入居者様の思いを探り当てるよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の業務の流れは定まっていますが、その時々のご入居者様の状況を見ながら、無理強いすることのない支援を心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある服や、ご本人様が自宅で好んで着用していた衣服を、ご家族様にご用意していただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々のご入居者様の状況を見ながら、ご本人様に出来ることは適時行っていただくよう、支援しております。	チルド食の導入によりメニューが豊富になり、一人ひとりに合った食事形態で提供している。また、月1回、手作りおやつの日を設けており、焼きそばやホットケーキ等、職員と一緒に作り楽しんで頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や水分摂取量などにつきましては、医師や看護師に相談した上で、その指示に従い支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、ご入居者様の能力に応じて支援しています。提携の歯科クリニックによる「居宅療養管理指導」に基づく訪問診療が実施されており、口腔内の衛生管理や治療を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い排泄パターンを個別に把握した上で、機能低下を可能な限り抑えるために、出来るだけトイレに座っての排泄を心掛けております。安全や安楽のため、特に必要なご入居者様は、職員2人で介助することになっております。	排泄チェック表により個々の習慣やパターンを把握し、職員で話し合い、一人ひとりに沿った対応方法を検討している。自尊心に配慮し、さりげなく声掛け誘導し、トイレでの排泄を目標としながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応については、月2回の提携医による往診や、週1回の医療連携看護師訪問の際に相談・報告し、その指示に従って対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を原則としております。入居者様の日々の状況に合わせて入浴日を変更したり、入浴剤を利用するなど出来るだけ入浴を楽しんでいただけるような支援を行っております。	週2回、その日の気分や体調を考慮し、一人ひとりがゆっくり入浴して頂けるよう支援している。拒む方には無理強いをせず、同性介助や声掛け、時間をずらすなどの工夫をしている。色々な入浴剤を準備しており、時には「草津音頭」等を流し、温泉気分を楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の換気、温度や湿度を調整しながら、昼寝や居室内の休息など各人の希望や日々の状況に応じて随時支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局により、副作用などの薬に関する情報や服薬管理についての知識は適宜提供されており、会議などを通じて、職員にも周知しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記のとおり支援すると共にケアカンファレンス、モニタリングを通じてご入居者様の個性や状態の変化などに合わせて見直しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため、短時間の外気浴にとどめております。	現在はコロナ禍のため、外出を自粛して頂いているが、天気の良い日には、近所の公園や敷地内を散歩したり、近くの野菜直売所に出掛けるなど、気分転換に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様の希望により、日用品等を購入した場合は、その費用を毎月の利用料と併せて請求し、お支払いいただく「立替金」システムを導入しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により、深夜等の時間帯は避け、お電話できるよう支援しております。ご家族様やご友人へのお手紙なども、その都度、支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけて、ご入居者様が安全に生活できるようにしております。また空調管理や湿度の管理にも気を配り、ホールにはその季節に合った装飾をすることで、季節感を損なわないようにしております。	リビングや廊下は整理整頓され、移動がしやすいよう、配慮している。紅葉の貼り絵や折り紙等の作品を飾り、季節を感じて頂いている。空調に気を配り、室温、湿度も管理され、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様の自主性を尊重し、個々のご希望に可能な限り沿えるよう心掛け、支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様の馴染みの品々は、居室へお持ち込みいただくことが可能となっております。居室内は基本的に毎日、職員が清掃しておりますが、可能なご入居者様には、無理のない範囲で、ご自身で清掃していただけるよう支援しております。	各居室の入り口にネームプレートと本人の写真が貼ってある。今までの生活スタイルで暮らせるよう、使い慣れたものや思い出のものを持ち込んで頂き、自分の家として居心地よく過ごせるよう配慮している。室内は毎日職員が清掃し、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様の認識力やその時々々の心身の状況などを合わせて、環境整備や支援の方法を工夫しながら支援しております。		

目標達成計画

作成日: 2022年 1月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	コロナ渦において、運営推進会議が実施できていない。	運営推進会議の実施。	概ね2ヶ月に1回予定している運営推進会議の日程について、新型コロナウイルスの感染や対策の状況を踏まえ、ホーム内での開催可否を判断する。ホーム内での開催が困難な場合は、関係者に対し運営状況の報告を書面にて行い、意見・要望等を確認する。	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

